

2. 社会教育の現状

- 近年の社会教育の状況を概観すると、社会教育施設に関しては、平成 27 年 10 月現在、全国に公民館が 13,777 施設、図書館が 3,336 施設、博物館が 5,683 施設存在している。これらを平成 17 年 10 月時点での施設数と比較すると、図書館は 2,979 施設から 12.0%と大幅に施設数が増えている一方、博物館は 5,614 施設から微増であり、公民館に関しては 17,143 施設から 3,366 施設減り 19.6%の大幅な減少となっている¹。
- 社会教育施設の利用者数に関しては、平成 26 年度間において、公民館は 1 億 9,310 万人、図書館は 1 億 8,138 万人、博物館は 2 億 7,791 万人がそれぞれ利用している。これらを平成 16 年度間の利用者数と比較すると、図書館は 1 億 7,061 万人から約 1 千万人、博物館は 2 億 7,268 万人から約 500 万人増えている一方、公民館に関しては 2 億 3,312 万人から約 4,000 万人減り 17.2%の大幅な減少となっている。
- 社会教育を推進する専門的職員の数に関しては、平成 27 年 10 月現在、社会教育主事が 2,048 人、司書が 1 万 9,016 人、学芸員が 7,814 人となっている。これらを平成 17 年 10 月時点での職員数と比較すると、司書は 1 万 2,781 人から約 1.5 倍に増えており、学芸員も 6,224 人から約 1.25 倍に増えている一方、社会教育主事に関しては 4,119 人から半減している。
- また、教育委員会の諮問機関であり、非常勤の職である社会教育委員の数についても、平成 13 年 10 月の 3 万 6,709 人から平成 23 年 10 月の 2 万 272 人まで過去 10 年間で約 45%の大幅な減少となっている。
- 図書館や博物館などの社会教育施設については、関係者の努力もあり、おおむね順調に発展していると捉えることができるが、公民館や社会教育主事、社会教育委員の減少傾向に関しては、社会教育の振興を図る上で憂慮される状況にある。この背景には、少子高齢化と人口減少の進展、市町村合併、地方行財政改革など様々な要因が存在する。以下に社会教育を取り巻く環境の変化と課題を明らかにし、今後の社会教育の在り方とその中で公民館や社会教育主事等に期待される役割を整理することとする。